

公家町の庭－江戸時代－

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 近藤奈央

はじめに

約 260 年続いた江戸時代は、大きな戦乱のない安定した社会であったことから、経済活動が活発化し、学問や文化が発達しました。庭造りについても同様に認知度や理解度が深まり、関心が高くなっていきました。前時代から引き継いだ様々な形態を一まとめにした庭や、個々の様式を発展させ、実生活に即した庭が多く造られるようになりました。庭造りの活発化は、作庭技術を頂点に到達させたといわれ、江戸時代は庭文化の成熟が最も促進された時期といえます。

京都には、江戸時代に造られた多くの庭が現存しています。しかし、御所周辺にひしめいていた宮家や公家の庭園は、地上にほとんど残っていません。京都迎賓館建設に伴う発掘調査では、公家町の邸宅跡を示す建物や溝などと共に、庭関係の遺構を発見しました。この公家町の庭を中心に、京都市内で見つかった江戸時代の様々な庭を紹介します。

1. 江戸時代の庭の歴史

安土桃山時代…茶庭や露地の成立、大規模な書院造庭園の出現

(巨石・名石、名木の使用)

江戸時代前期…茶庭や茶室、枯山水庭園、鴨場などを取り込んだ池泉回遊式庭園の完成

⇒大名庭園(石川県兼六園、東京都小石川後楽園など)

城郭庭園、寺社の庭園、上級武家や豪商・豪農の屋敷庭園

御所・離宮庭園(京都御所、仙洞御所、桂離宮、修学院離宮)

江戸時代中期以降…庭園の作庭本・ガイドブック(印刷技術の進歩)

⇒「築山山水伝」享保 8 年(1723)頃

「築山庭造伝」享保 20 年(1735)、北村援琴斎

築山や景石・植栽の配置場所など庭の見本を挿絵にして掲載

→典型的な庭の造作、

いわゆる「公園」の造営(江戸)

⇒寺社・庭園の行楽地化

秋里籬島による「都名所圖會」安永 9 年(1780)

「拾遺都名所圖會」天明 7 年(1787)

「都林泉名勝圖會」寛政 11 年(1799) など

京都御苑内に残る江戸時代の庭

池泉回遊式庭園：京都御所、仙洞御所、閑院宮邸跡庭園、九条家庭園

座観式庭園：近衛家庭園

茶庭、露地：京都御所、仙洞御所

壺庭(坪庭)：京都御所

2. 公家町遺跡の庭

公家町は、現在の京都御苑とその東は河原町通まで、北は同志社大学構内に広がっていました。永禄十三年(1570)から、織田信長によって御所の修造「永禄の内裏造営」が開始されました。また、天正十七年(1589)に豊臣秀吉による「天正度の内裏造営」が実施され、御所周辺に公家衆を集めて、屋敷地の再編が進められました。ここに公家町が出現します。徳川幕府にも屋敷の集約と固定化が受け継がれ、慶長十年(1605)の院御所形成まで続きました。

調査地①：平成 9 年(1997)、京都御所東側の饗宴殿跡地で、京都迎賓館の建設が計画されたことに伴って、約 5 年間にわたって発掘調査を行いました。調査地では、江戸時代前期以降の公家町に関係する建物跡や池跡などを検出しました。池跡には、洲浜をもつものや景石が配置されたもの、漆喰を肩口のみ塗るもの、黄褐色粘土を貼ったものなどが見つかっています。庭園に付属する階段を持つ井戸も確認されました。天明の大火後の宅地 5・6 では、建物配置と庭園の位置関係が分かるだけでなく、一つの邸宅内に様々な池が造られていたことが明らかとなりました。池 E 25・F 1200 は能舞台の南東に造られた東西に長い池跡で、新旧 2 時期あることがわかっています。E 25 の旧池と新池の造りが大きく異なり、また新池の東西でも異なった意匠を多用していました。時期は 18 世紀後半以降から明治時代初頭までと考えられています。宅地の東半は井戸や石組貯蔵施設、蔵などがあることから、生活空間であったと考えられ、漆喰塗りの池 A 57・G 364・G 250・G 253 はそのような建物の間に造られた坪庭的な空間に配置されていたとみられます。江戸時代の公家町の様子については古絵図が多く存在することから、家主が判明する場合があります。宅地 5・6 については宝永の大火(1708 年)以後、柳原家の所有となっています(宅地 6 は江戸時代前期から所有)。

調査地②：平成 27 年(2015)に元春日小学校立替に伴って調査を行い、建物や井戸、蔵、溝、漆喰池などを検出しました。江戸時代中期以降から明治時代初頭まで、高辻家の宅地であったことが絵図などから判明しており、漆喰池は火災による破損後、3～4 回造り直されて使用されていたことが明らかになっています。

調査地③：同志社女子大学体育施設建設に伴って行なわれた二条家邸跡の調査です。池の水は北西から取水し、漆喰で塗り固めた溝や集水槽を経て、南北に長い漆喰底を持つ池に流し込んでいました。集水槽は東西に 2 基並び、間を土管で繋いでいました。沈殿槽の役割があったようです。池には所々で景石と見られる石が確認されています。時期は 19 世紀後半頃と考えられています。

調査地④：宮内庁京都事務所増築等改修工事に伴って、一条家の邸宅跡で発掘調査を行いました。江戸時代前期から後期にかけて、火災で焼失する度に、再建を繰り返していたことがわかりました。南北 2 棟の建物とそれらを繋ぐ渡廊下の東側で、漆喰池を確認しました。池底西寄りに魚溜り、北東付近に景石または飛石の抜取り穴があり、北東から延びた暗渠が集石に取り付けていました。池から溢れた水を暗渠で集石まで流して、排水していたようです。時期は、18 世紀以降から幕末までと考えられています。

調査地⑤：京都御苑南西角に位置し、江戸時代中期から明治時代初頭にかけて、閑院宮邸が所在していました。2 年度に渡って庭園整備事業に伴う試掘・立会調査を行いました。閑院宮家は、宝永七年(1710)に東山上皇の第 6 皇子である直仁親王を始祖として新設された宮家です。創建当初から公家町南西角に宅地を構えており、天明の大火(1788 年)で建物は焼失しますが、その後同地に再建されました。明治二年(1869)の東京遷都に伴って、宮家も東京へ移転し、邸宅跡は華族会館や裁判所などに使用されていました。明治四十年(1907)の絵図によると、現在の池の東にある塀は約 20 m 東に位置し、池がさらに東へ広がり、橋が架けられていたことがわかってい

ます。大正四年（1915）の大正天皇即位大礼に伴い、敷地が狭められ、池の東半部は埋め立てられました。

池の堆積土が約 0.3 mあり、その下層に新旧 2 時期の池底が遺存していることがわかりました。新池底は 18 世紀後半から 19 世紀にかけて、腐植土や堆積土によって旧池底が埋まった後に造られました。旧池は 18 世紀中頃までには造作されました。北岸は、南面する石積みで東西方向に延びていました。護岸の石は 2～3 段に積み、石と石との間の池底に杭を打ち込んで、石留めとしていました。西岸から南岸にかけて洲浜を確認しました。杭を打ち込んで土留を行った後、漏水防止の粘土を敷き、池底から肩部にかけて 10～20cmの玉石を貼り付けて、緩やかな護岸を造っていたことが分かっています。中島も洲浜状を呈していました。池の北東部では、洲浜を確認していませんが、北岸の延長上で杭列を検出しました。この杭列は、土留または北側にある井戸状遺構から流れる水を止める堰状遺構とみられます。給水は北から流れる禁裏御用水や井戸状遺構の水が池の北東から流れ込み、排水は池南東部から排出されていたようです。

3. その他の江戸時代の庭

淀城跡内高嶋池跡

西本願寺北東隅池跡

平安京左京五条三坊跡の水琴窟

伏見奉行同心屋敷跡の蹲踞と水琴窟

伏見奉行所跡の六角形池跡

まとめ

- 水を利用した庭園が好まれて造られました。
- 広い土地を利用した庭園と限られた空間を最大限利用した庭園が造られました。
→敷地内の建物との関係で、規模の二極化が進みます。
- 手水鉢や蹲踞、水琴窟などは、小空間を演出する道具として小規模住宅にも積極的に採用。
- 階段を持った石組井戸が庭園の一部として造られます。
- 漆喰池は、狭い場所に漏水を気にせず、大きさや形状を自由に造れることから、坪庭や裏庭に最適な意匠として、江戸時代中期以降に公家や裕福な商人などに広まったとみられます。
- 給排水の施設に様々な技術を駆使されました。

《参考文献・図面引用文献》

小野健吉『日本庭園—空間の美の歴史』岩波書店、2009 年

『慶長昭和京都地図集成』柏書房、1994 年

近藤知子「平安京左京七条二坊」『平成 7 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1999 年

近藤奈央「平安京跡・烏丸丸太町遺跡（閑院宮邸跡）」『平成 16 年度 財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2006 年

近藤奈央「旧閑院宮邸跡」『平成 17 年度 財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2008 年

白幡洋三郎『大名庭園』講談社、1997 年

鈴木久史「長岡京跡第 583 次・淀城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成 27 年度』京都市文化市民局、2016 年

『常盤井殿町遺跡発掘調査報告書—近世二条家邸を中心とする調査成果—』同志社大学歴史資料館・同志社女子大学、2010 年

『伏見奉行所発掘調査報告Ⅱ—桃陵団地立て替え工事に伴う埋蔵文化財調査—』京都市住宅局・伏見城研究会、1997 年

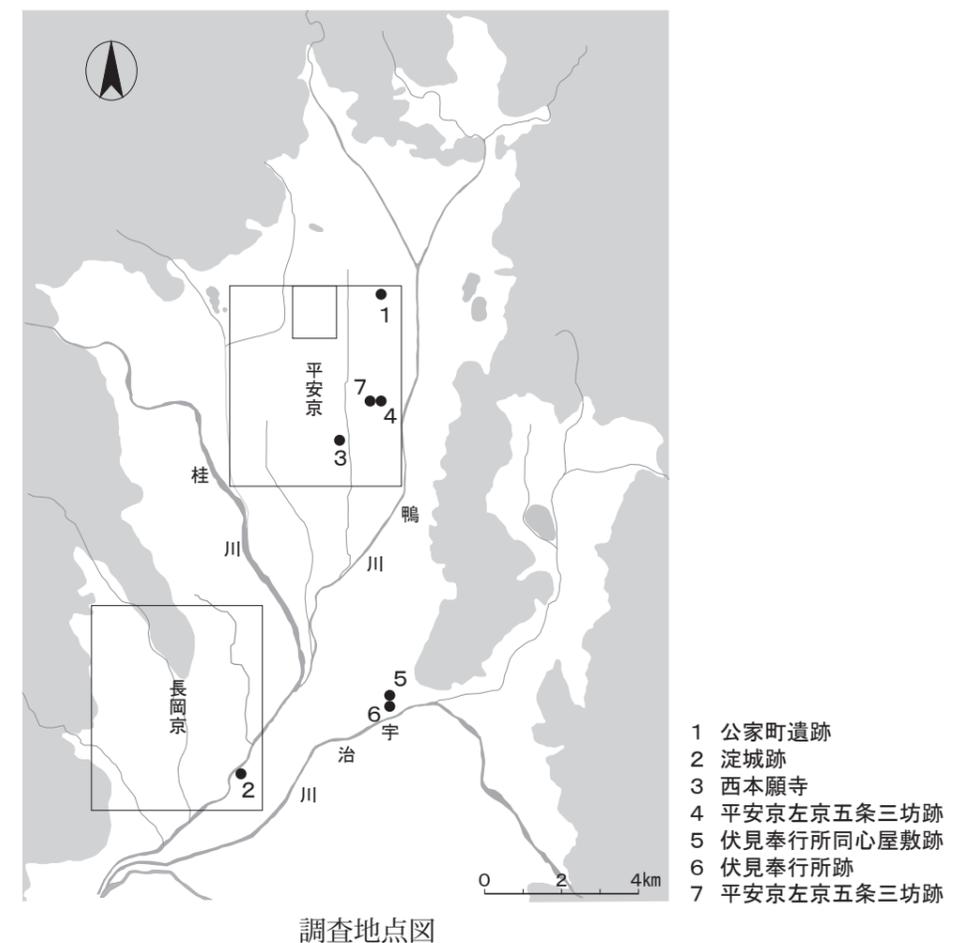
『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書 公務員宿舎伏見住宅（仮称）整備事業』西近畿文化財調査研究所、2010 年

『平安京左京北辺四坊』（『京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第 22 冊）財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2004 年

丸川義広『公家町遺跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』2009—5）財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2009 年

森蘊『日本史小百科 庭園』東京堂出版、1988 年

吉川義彦『平安京左京五条三坊発掘調査報告』関西文化財調査会、1998 年



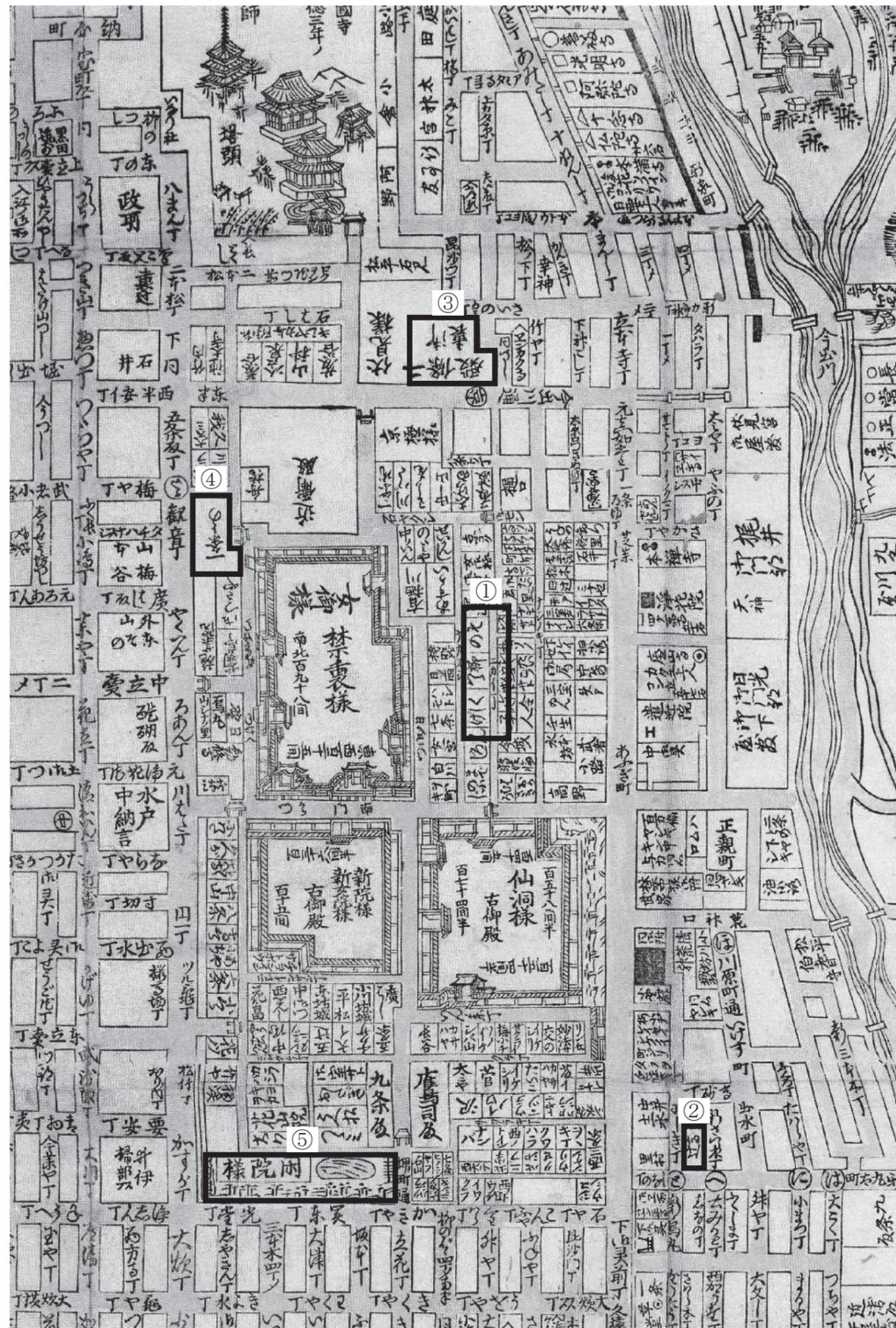


図1 調査地位置図(『慶長 昭和 京都地図集成』柏書房、1994年に加筆)

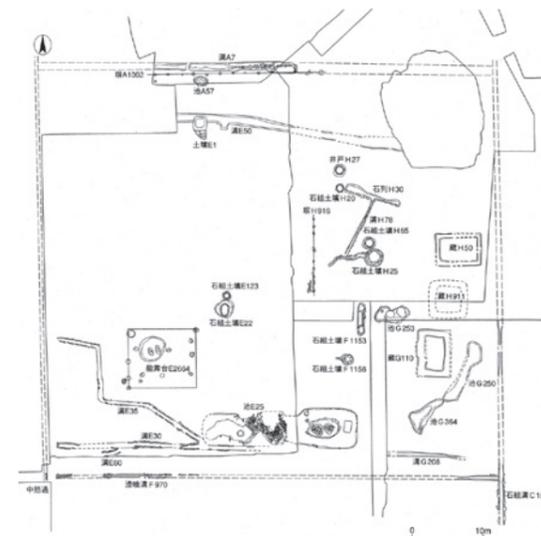


図2 調査地①: 柳原邸遺構配置図(天明大火後)

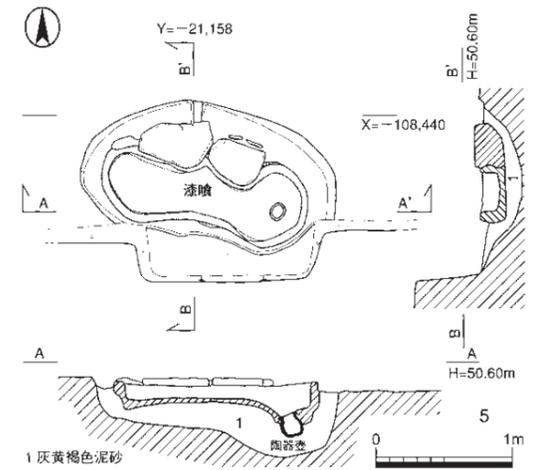


図3 調査地①: 漆喰池 A57 実測図

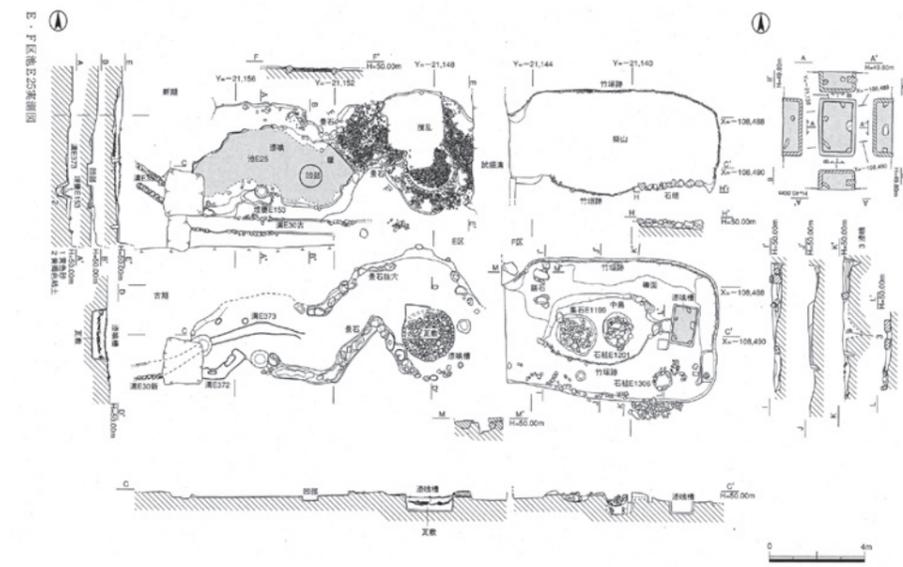


図4 調査地①: 池 E25 実測図

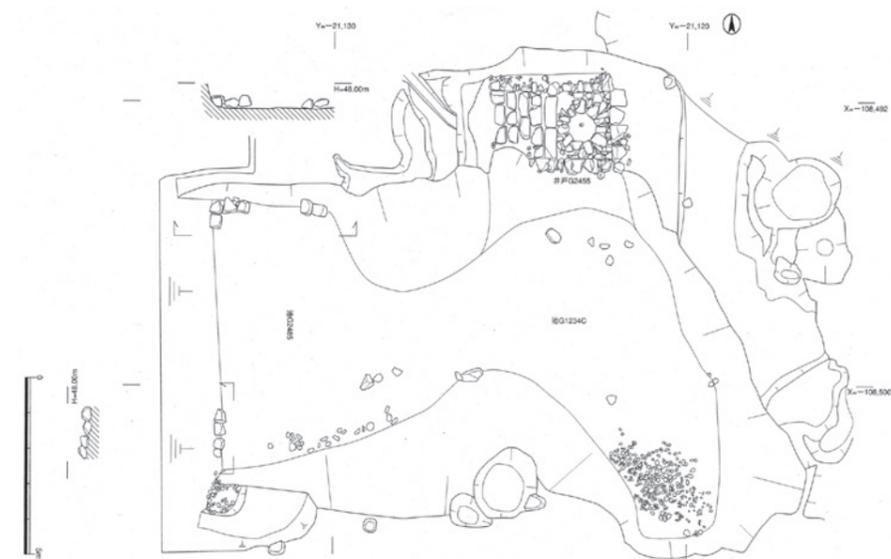


図5 調査地①: 池 G1234C・2485 実測図



図6 調査地①: 漆喰池 A25 (西から)



図7 調査地①: 井戸 G2455 (北東から)

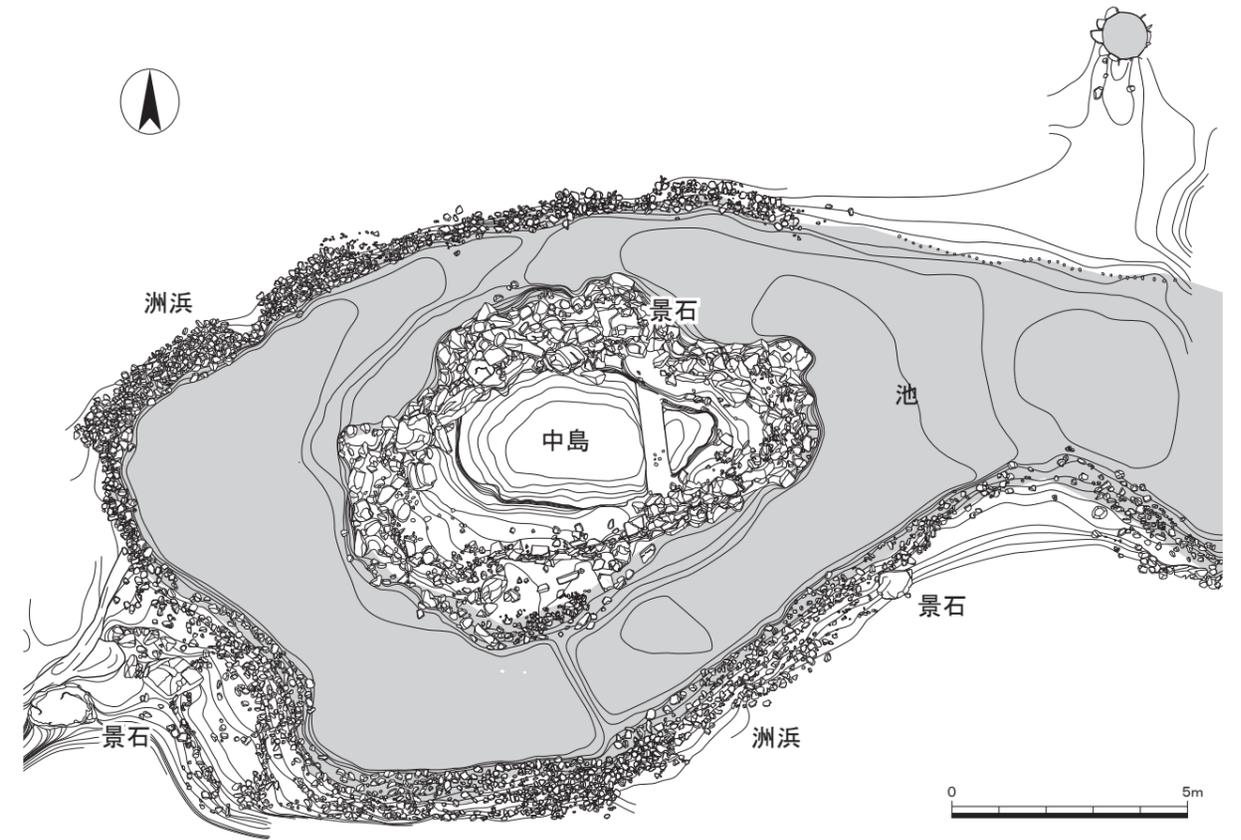


図11 調査地⑤: 旧池実測図 (1:150)

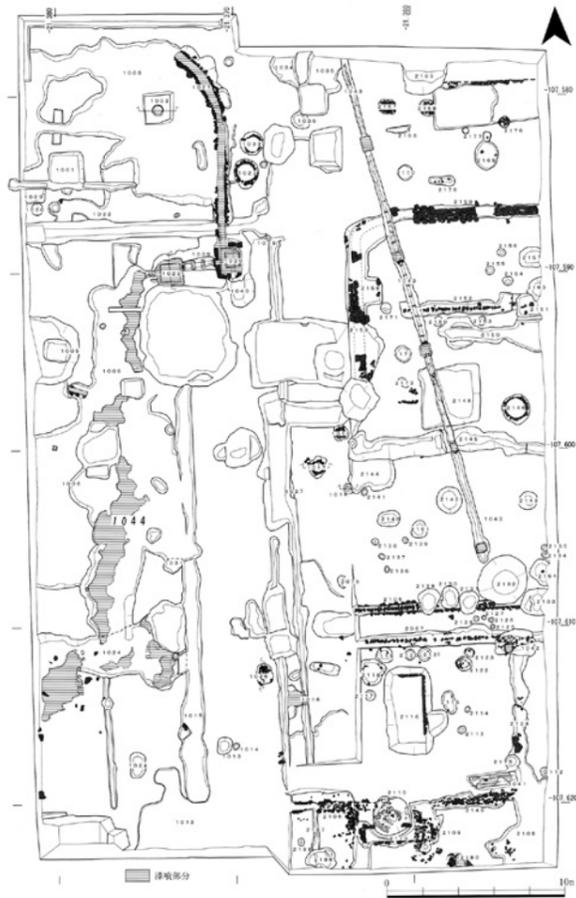


図8 調査地③: 調査区平面図



図9 調査地③: SX1020 (東から)



図10 調査地③: SG1044 (南から)

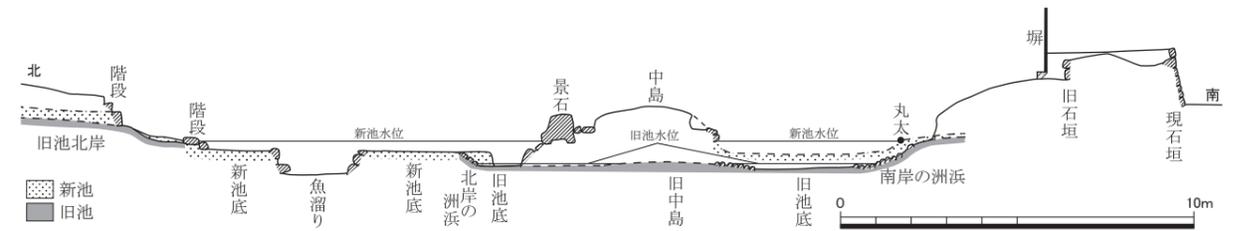


図12 調査地⑤: 池跡南北方向断面図 (1:200)



図13 調査地⑤: 旧池全景 (北東から)



図14 調査地⑤: 旧池北岸の護岸状況 (南東から)

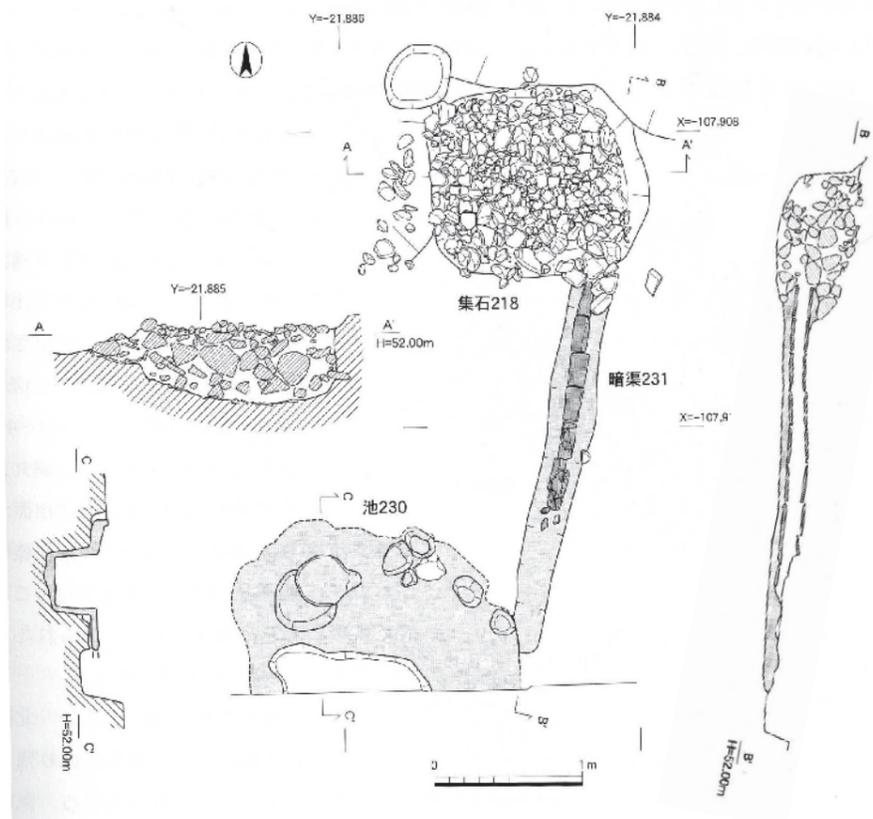


図15 調査地④：漆喰池・暗渠・集石実測図

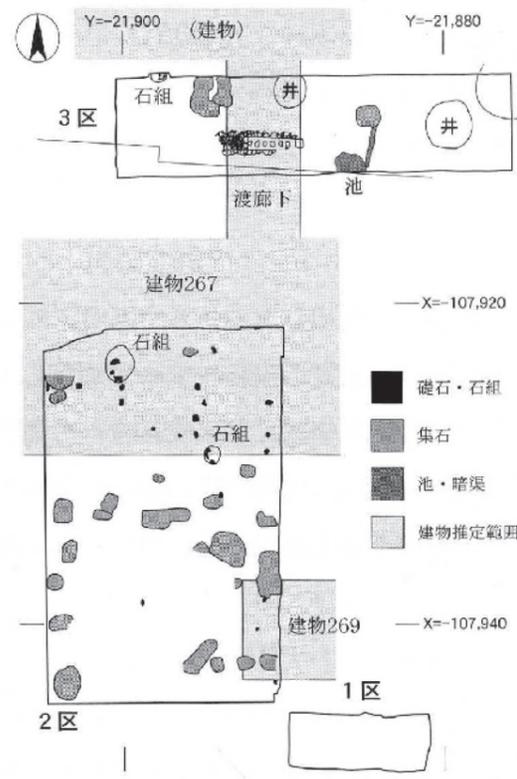


図16 調査地④：遺構変遷図



図18 西本願寺池跡（西から）

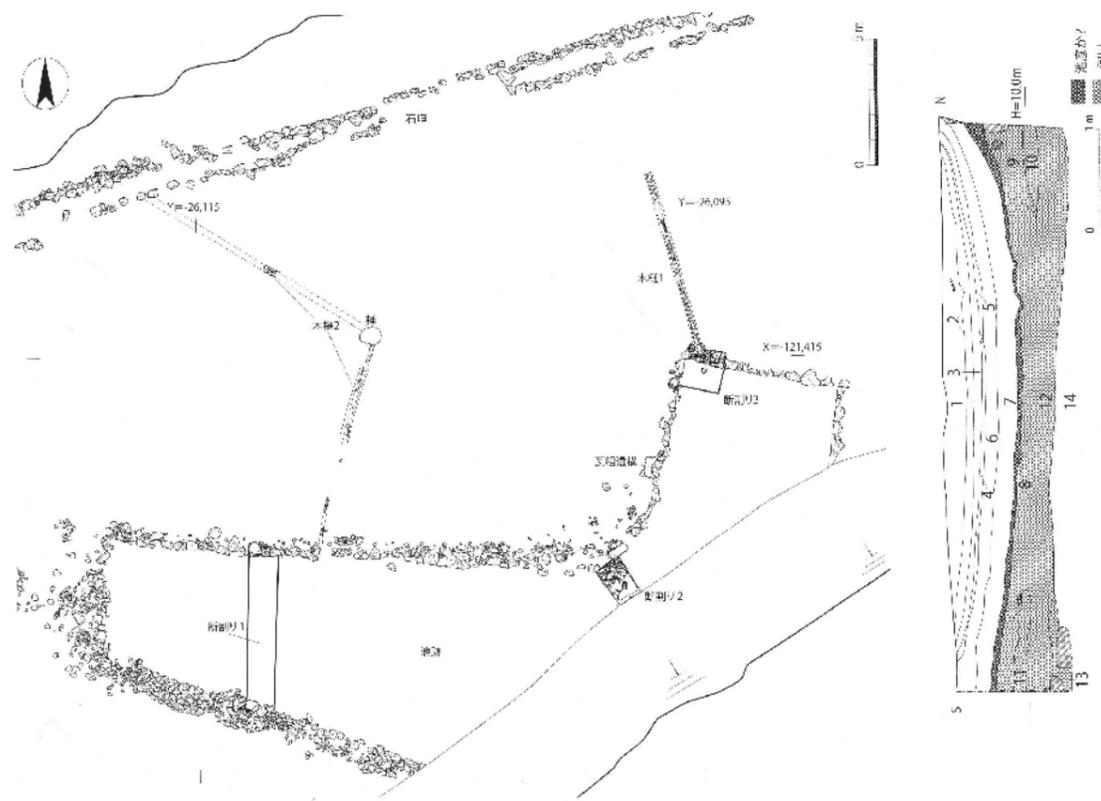


図17 淀城跡内高嶋池跡実測図



図19 西本願寺池跡、洲浜と景石（北西から）

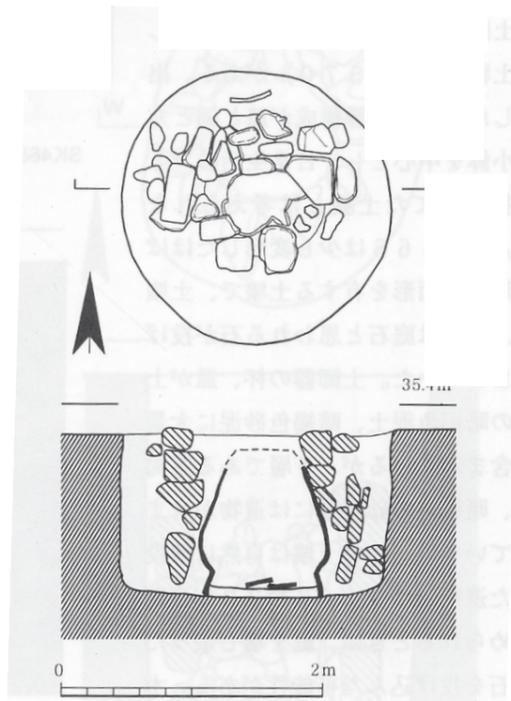


图 20 平安京左京五条三坊跡：水琴窟実測図



图 21 平安京左京五条三坊跡：水琴窟全景（南西から）

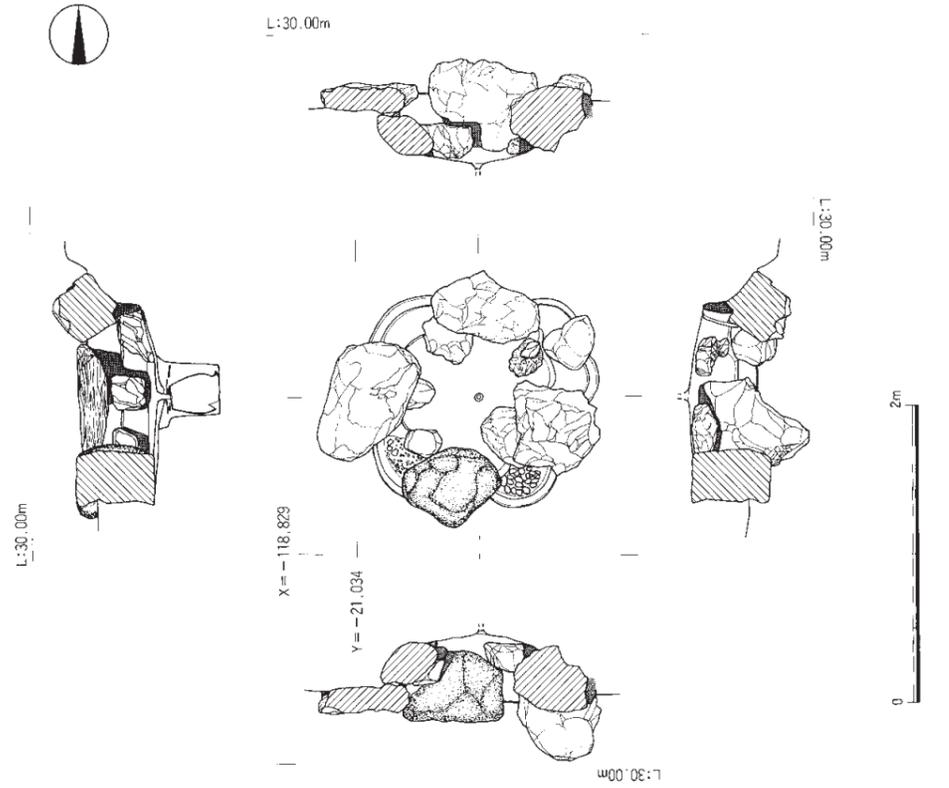


图 25 伏見奉行所同心屋敷跡：蹲踞 141 実測図

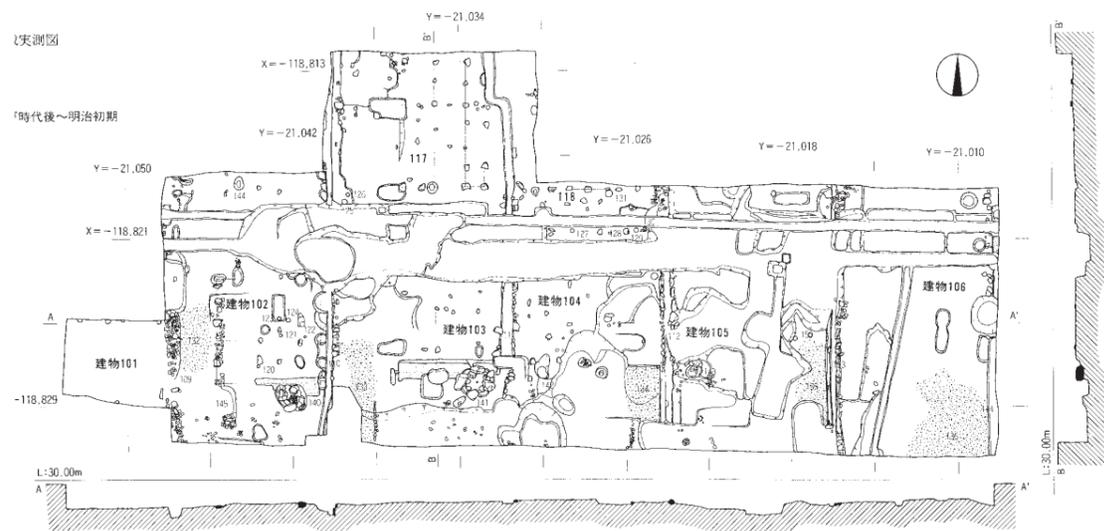


图 22 伏見奉行所同心屋敷跡：調査区実測図



图 26 伏見奉行所跡：池跡 SX1113 実測図



图 23 伏見奉行所同心屋敷跡：蹲踞 140（北東から）



图 24 伏見奉行所同心屋敷跡：蹲踞 141（北西から）